

明治グループファームアニマルウェルフェアポリシー

私たち明治グループは、自らの事業が豊かな自然の恵みの上に成り立っていることを踏まえて、社会的責任を意識した調達活動を行っています。また、家畜は感覚のある存在であることから、サプライチェーンにおいて、人権や環境への配慮に加え、家畜の生命の尊厳と人道的な取り扱いを重要視し、アニマルウェルフェアの向上を追求していくことは、重大な社会課題のひとつであると認識しています。

私たちは、アニマルウェルフェアとは家畜の快適性に配慮した飼養管理であると考えております。私たちは、国際獣疫事務局 (WOAH) がアニマルウェルフェアの指針として示した「5つの自由」(※) の考え方に基づいて、サプライチェーンにおけるアニマルウェルフェアの取り組みを推進します。

- (※) 5つの自由
- ① 飢え、渇きおよび栄養不良からの自由
 - ② 恐怖および苦悩からの自由
 - ③ 物理的、熱の不快からの自由
 - ④ 苦痛、傷害および疾病からの自由
 - ⑤ 通常の行動様式を発現する自由

私たちは、乳用牛、肉用牛、豚、採卵鶏、ブロイラーに由来する原材料を使用しており、家畜によってさまざまなアニマルウェルフェアの課題が発生し得ることを認識しています。それらの課題に対して、私たちは以下の考え方に基づいて、生産者、サプライヤー、業界関係者と連携し、サプライチェーンにおけるアニマルウェルフェアの向上を目指していきます。

1. 家畜の観察

家畜にとって飼養環境が快適かどうかを確認するためには、家畜の健康状態を常に把握しておくことが重要です。飼養環境が変化した直後や暑熱・寒冷時期などは、疾病や損傷の発生予防などのために、観察の頻度を増やすことが必要です。

2. 家畜の栄養

家畜が健康を維持し、正常な発育、繁殖などの活動を行うためには、家畜の発育段階に応じた適切な栄養素を含んだ良質な飼料と水を給与することが重要です。給餌および給水の設備は、すべての家畜が必要な量の飼料、水および栄養素を制約なく摂取できるようにする必要があります。

3. 病気やけがの治療

病気やけがを未然に防ぐには、日常の飼養管理が重要です。家畜が病気にかかったり、けがをしたり、異常な行動を示したりした場合、必要に応じて観察するための隔離房に移動させ、迅速に治療を行うことが重要です。なお、隔離房には家畜が必要とする敷料などを追加したり、飼料と水を摂取しやすい場所に備えたりすることが必要です。抗生物質の使用は、獣医師などの指導のもと、治療の目的で適切な用量を必要最小限投与されることが望ましいと考えます。農場内で家畜を処分する際には、家畜の生命の尊厳を最大限尊重し、できるだけ苦痛を与えないよう、獣医師などの指導のもと、適切な処分方法で対応する必要があります。

4. 畜舎の環境

畜舎は通気性を良好にし、暑熱や寒冷への対策を講じるなどして、畜舎内の温度および湿度の変化による、家畜のアニマルウェルフェアに及ぼす悪影響が最小限となるよう設計し、家畜の快適性に配慮する必要があります。飼養空間は、家畜の移動、休息、摂食や飲水などの行動が妨げられることのないよう、飼養方式の特徴に合わせて、過密を避け、十分な飼養空間を維持管理することが望ましいと考えます。

5. 家畜の輸送

家畜の輸送時には、家畜の健康と安全を保持し、丁寧に取り扱い、家畜にとって不快な環境を回避することが重要です。家畜の輸送時間を可能な限り短くするための計画や準備など、適切な対策を講じ、輸送時にかかるストレスを可能な限り軽減する必要があります。

6. 乳用牛および肉用牛の繋がれていない状態での運動

牛の飼養方式には、繋ぎ飼い方式、放し飼い方式、放牧方式やそれらの組み合わせなどの多くの選択肢があります。繋ぎ飼い方式で飼養されている牛は、繋がれていない状態で十分に運動ができるようにすることが推奨されています。牛舎を新築や改修する際は、このような点にも配慮をする必要があります。

7. 乳用牛および肉用牛の除角

除角は、牛の攻撃性の低減と管理者の安全確保のために重要な措置ですが、牛にとっては苦痛とストレスを伴う行為です。除角を行う際は、角が未発達な時期である若齢の時に、除角によるストレスが少ない焼きごてで実施し、必要に応じて獣医師による麻酔薬や鎮痛剤の投与のもとで行うことが望ましいと考えます。また、実施後は牛を注意深く観察し、化膿などが見られる場合は速やかに治療を行う必要があります。

8. 乳用牛の断尾

乳用牛の断尾は、牛体や乳房の汚れにより生乳が汚染されることの防止や、尾による管理者の負傷防止などを目的として行われることがあります。しかしながら、断尾を行うことにより、牛が害虫を追い払うことができなくなり、ストレスを感じるなどの側面もあることから、断尾は実施しないことが望ましいと考えます。衛生上の問題がある場合は、代替法として尾毛の刈取りなどで対応する必要があります。

9. 豚の去勢

去勢の処置は痛みを伴い、苦痛をもたらす可能性があるため、獣医師などの指導のもと、苦痛を可能な限り少なくする方法で、できるだけ早期に行うことが望ましいと考えます。

10. 豚の断尾

梅雨時期の多湿や夏場の高温など、豚が何らかのストレスを受けた場合、他の豚の尾をかじる行動が見られます。尾かじりを防止するために、飼養空間の拡大、飼料や水を巡る闘争の抑制などの措置によって、その発生をある程度減らすことができますが、そのような措置を講じても防止できない場合には、断尾も最終的な手段の一つです。断尾の処置を行う際は、獣医師などの指導のもと、苦痛を可能な限り少なくする方法で、できるだけ早期に行うことが望ましいと考えます。

11. 豚の飼養空間

豚は社会的な動物であり、群れで生活することを好むことから、群れで飼養する方式が推奨されています。種雄豚や経産雌豚、損傷した豚など、必要な場合にのみ、囲い・おりなどで個別に飼養することが重要です。

囲い・おりなどで飼養する際には、自然な姿勢での起立、方向転換、快適な横臥が可能で、摂食のための個別のエリアを確保できる十分な空間を提供する必要があります。

ストールで飼養する際には、ストールの両端に豚の体が同時に触れることなく、かつストールの壁や上の棒にぶつかることなく自然な姿勢で起立できるようにするとともに、隣の豚を

邪魔し、または他の豚から損傷を受けることなく快適に横臥できる適切な大きさのストールを用いることが望ましいと考えます。

12. 採卵鶏およびブロイラーの爪切り、断冠

鶏は、飼料や活動空間の確保、社会的順位の確立などのために闘争する習性があり、闘争行動による損傷や死亡を防止するため、爪切り、断冠を行うことがあります。しかしながら、痛みを伴う爪切り、断冠は、必要な場合を除き、実施しないことが望ましいと考えます。

13. 採卵鶏およびブロイラーの羽つつき防止

鶏は群で飼養すると、羽をつつき合って個体同士で傷つけることがあります。これらの羽つつきを防止するためには、より穏和でおとなしい系統を選択したり、飼養管理において、飼料の組成や形状を最適化したり、飼養空間のゆとりを拡大したり、ついでみ材を提供したりするなどの管理措置を講じる必要があります、ストレスやケガのリスク低減、健康を維持することが適切であると考えます。

家畜の健康を保持するためには、家畜が快適に生活できるようにすることが大切であり、日常的なきめ細かい健康管理や飼養環境の改善などが必要です。私たちは、アニマルウェルフェアの大切さを積極的な情報発信によりお客さまに広く伝えていくとともに、生産者、サプライヤーを含む業界関係者と協力し、業界全体でアニマルウェルフェアを向上させる取り組みを推進していくことで、持続可能な調達活動を目指します。

制定 2021年9月

改訂 2024年4月